

AAMT 2021, Online ～機械翻訳最前線～



AAMT創立30周年記念講演

翻訳業界とMTとの過去、現在と未来

一般社団法人日本翻訳連盟(JTF)

代表理事・会長 安達 久博

講演者のプロフィール

- 1983年 東京芝浦電気株式会社(現、東芝入社)。
同年京都大学長尾真研究室にて科学技術庁
機械翻訳プロジェクト(Muプロジェクト)に従事。
- 1984年 東芝英日・日英相互機械翻訳システムの研究開発に従事。
- 1986年 通産省大規模電子化辞書プロジェクトに従事のため、
日本電子化辞書研究所(EDR)に出向。
- 1989年 東芝復帰後は高精度仮名漢字変換システムの研究開発に従事。
- 1992年 東芝退社。同年宇都宮大学工学部情報工学科着任。
手話通訳システム、手話電子化辞書の研究に従事。
- 2003年 宇都宮大学退職。同年株式会社サン・フレア入社。
現在、同社代表執行役員。
- 2020年 日本翻訳連盟代表理事・会長
アジア太平洋機械翻訳協会副会長。博士(工学)。

翻訳業界とMTとの過去

理事および監事

会長	長尾 真	京都大学	教授
副会長	水嶋都香	株式会社東芝	常務取締役
	小谷泰造	株式会社インターグループ	社長
理事	浅田 篤	シャープ株式会社	副社長
	大野栄一	三菱電機株式会社	取締役
	小松達也	株式会社サイマル・インターナショナル	社長
	鈴木 健	社団法人 日本電子工業振興協会	専務理事
	田中穂積	東京工業大学	教授
	登家正夫	日本電気株式会社	取締役
	戸田保一	株式会社CSK	副会長
	中島昌也	松下電器産業株式会社	取締役
	野々内 隆	株式会社日立製作所	常務取締役
	野村浩郷	九州工業大学	教授
	樋浦克彦	株式会社十印	取締役
	平栗俊男	富士通株式会社	常務取締役
	山本正隆	沖電気工業株式会社	常務取締役
監事	勝田美保子	社団法人 日本翻訳連盟	会長
	佐藤清俊	社団法人 日本電子工業振興協会	常務理事

JAMTジャーナルNo.1(1991年(平成3年)7月25日発行)より

翻訳業界とMTとの過去

専門分野を広げたい方に!!

分野別英語通信講座


専門分野別英語講座で、
専門知識、専門用語を学習しながら
翻訳の腕を磨きましょう!

—MTエディットも学べます—

★コンピュータ英語から原子力英語まで★
……ガニュアイ英語講座……
コンピュータ英語クラス/電気・電子英語クラス/
機械・機器英語クラス/化学・石油英語クラス/
医学・薬学英語クラス/鉄鋼・金属英語クラス/
原子力英語クラス/建築・土木英語クラス

日本機械翻訳協会法人会員

創立20周年
シュリーマン学専グループ



◆詳しい資料無料進呈
翻訳実務教育学院
〒160 東京都新宿区四谷3-2 第3前島ビル3F
電話 03-3355-2678 FAX.03-3355-1174

腕に自信のある方にチャンス!!


「翻訳実務」は登録商標です

◇言語：30数カ国語
英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・
ポルトガル語・ロシア語・中国語・韓国語・
イラン語・トルコ語・アラビア語・ペルシア
語・北欧諸国語・東欧諸国語・イタリア語・
タイ語・ベトナム語・トルコ語など

◇分野：68部門680分野
コンピュータ・農林・水産・バイオ・医薬・
海洋開発・宇宙開発・原子力・資源開発・造
船・石油・繊維・鉄鋼・半導体・航空機・自
動車・精密計測機器・医療機器・公害・住宅・
金融・証券・契約書など

MTサービス実施

創立20周年
シュリーマン学専グループ



◆トライアル随時受付中
国際文化科学技術翻訳研究所
〒160 東京都新宿区三栄町25 木ナタワービル2F
電話 03-3355-1168 FAX.03-3355-0270

JAMTジャーナルNo.7(1992年8月1日)発行より

翻訳業界とMTとの過去

自動翻訳の研究を進める

をを狙うものなんです。実のところは米国の駐員を置いて、東京リビエラのころから、際、日本語の技術文献を英語に、情報収集に努めたのが功を奏し、リポトリ輸出が増え始め、高度

十印社長
勝田美保子さん (60)



十印 38年に設立。勝田社長とア請の下での新
ルバイトのわずか2人で翻訳の波に乗り
けから出発した。高度成長の波に乗り
り、輸出向けマニュアルに。技術走
成長。現在社員300人。トップ
でも所界(しかい)の

という仕事は売の上げペースで、なもので、七〇%に低下しました。逆方向の仕事を増やしたんです。田安が映するパソコン的な部分が、続いた二年前までは約九七%だったのを考えると、一激助の、答、そうですね。最初は業界「日本経済」にうまく対応できたの翻訳から出発したんです。東

問 石油ショックが水をすこころから翻訳だではダメだと感じ始めました。メーカーが持つてくる文書を読み、事足りてはダメだと。そのころから翻訳は、よ

を養成し、メーカーが日本語文案を、くる段階からサポートできる体制を整えるのが目標になりました。輸出の主力がフ

と移るにつれ、技術者アマチユアのパイ役であるクニカ

ルライターはますます重要になってきました。でも、今年はそのに積極的提案をします。問 自動翻訳に挑戦するんです。その中で研究へのヒントも

答 AI人工知能 実用化に向けて、言語研究所をのり扱う人間くさいオン・ロシーは、ハード面だけ進歩してま

まへいかならへです。例えば

翻訳業界とMTとの過去

だれにも、どこでも役立つ翻訳を

Translation, a Pervasive Presence

翻訳は、他国の工業製品の買い手に魅力を感じさせ、その品質保証をより完全なものにします。また、危険な物質の容器に印刷された注意書きによって人の命を救っています。さらに、よくできた翻訳は、メーカーのイメージを高めます。このように、翻訳は、ユーザーとしてのあなたやメーカーとしての企業に貢献し、安全をも保証しているのです。

いま世界は、他国に比べて豊かな日本企業の動きを注視していて、ことあるごとに批判の声を浴

びせてきます。文化の異なる他国とさらに健全な交流を進めるため、ここでわたしたちは、単なる「ことば」や「こと」の翻訳から、「こころ」を正しく自然に翻訳するように務め、それによって日本国や日本人がほんとうに外国人から同じ地球上の同胞として愛されるようにならなければなりません。

翻訳の日を記念して、広く産業界一般に翻訳の重要性を訴えるため、実務家の関心の深いテーマを主とした構成といたしました。

第2回JTF翻訳の日記念行事 平成5(1993)年10月2日開催チラシより

翻訳業界とMTとの過去

2018年に京大・芝蘭会館で開催された第28回JTF翻訳祭2018の交流会では、乾杯のご発声を賜りました。勝田元会長と壇上で握手を交わされたのが印象に残ります。そして、その翌日には長尾先生の文化勲章受章が決定したとのニュースが流れ、会場は興奮に包まれました。不思議なご縁、巡り合わせを感じました。

また、翌2019年には、パシフィコ横浜で開催された第29回JTF翻訳祭2019の交流会でも乾杯のご発声を賜りました。悲しいことに、これが長尾先生とお会いする最後の機会となってしまいました。

個人的にも40年近くご指導頂きました。長尾先生は当初から、機械翻訳は決して人間の翻訳と対立するものではなく、双方がうまく協調、協同してより良い翻訳を世の中に提供、貢献していくべきものとおっしゃっていました。

今年、創立40周年という大きな節目の年に翻訳・通訳業界への提言などを頂戴できないことをとても悲しく思います。

一般社団法人日本翻訳連盟(JTF) 追悼文 長尾眞先生のご逝去を悼んで より

翻訳業界とMTとの現在

日本翻訳連盟は今年創立40周年を迎え、40周年記念セミナーを4月に開催し、好評のため、10月に開催の第30回JTF翻訳祭2021でも続編をご講演頂いた。

「機械翻訳とは何か。どこから来て、どこへいくのか？」

昨年出版された『機械翻訳:歴史・技術・産業』(森北出版社)に基づいて翻訳された高橋氏と解説を執筆された東京大学の中澤先生にご講演頂いた。

高橋氏からは、訳書を通じて個人翻訳者が考えた機械翻訳についてそもそも翻訳とは何か、翻訳者は今後どう向き合っていくのか、一部の仕事は機械に奪われていくという現実と、翻訳者の仕事の必要性と可能性などについてご講演。

中澤先生からは、最新のニューラル機械翻訳の技術を、学習のデモを交えて分かりやすくご説明頂いた。なぜ機械翻訳は間違えるのか、これから精度は上がっていくのか、など、数式を使わない最前線の研究についてご講演。

機械翻訳システム(MT)の健全な普及と促進のためには、MTは品質を保証(担保)できない。そのため、人間の専門家によるPost-Editingが必要不可欠である。

翻訳業界とMTとの未来

機械翻訳を効果的に使うためには対訳や用語集の整備などが必要で、そうした新しい仕事、リンギストのニーズも高まっている。

今後、個人翻訳者への情報リテラシー、ITリテラシーの教育の場の提供が必要。

用語バンク

一般社団法人日本翻訳連盟(JTF)は、翻訳の品質に大きな影響を与える対訳用語集に関わる課題を明確にする目的で、「用語バンク委員会」を2019年に設立した。

用語バンク実現に向けた検討と課題(JTF用語バンク委員会)2021年3月
https://www.jtf.jp/pdf/Ybank_202103.pdf

翻訳業界とMTとの未来

用語バンク 設立趣旨(事業計画より抜粋)

JTF 内では翻訳品質委員会の中で、スタイルガイドおよび品質評価ガイドラインの策定がなされている。

対訳用語集(以後、用語集と略記)への準拠については、翻訳の品質に大きな影響を与える事項としてスタイルガイドおよびガイドラインの中でも触れられているが、用語集の形式、定義プロセス、属性管理およびその用語集エントリそのものの定義などについては作業者の判断にゆだねられており、業界内の共通認識はまだ確立されていない。

適切な用語を、適切な分野に適用するために必要なことは何かを洗い出すため、用語集の構築、管理、運用のベストプラクティスまずは業界内の実態調査を実施し、業界関係者にとって真にメリットのある用語集の在り方を検討したい。

JTF が推奨する用語管理のモデル、および業界関係者への用語集「用語バンク」の提供の可能性を検討する。

翻訳業界とMTとの未来

用語バンク構想の実現に向けた今後の JTF の取り組みは、

供与された用語集の対訳化や用例の提供に積極的に協力し、対訳用語集を適切に運用するための管理運用体制を敷くことができる。

一方で、仮に用語バンクを構築できても、産業界が用語バンクを利用しなければ、翻訳業界における用語の課題も解決することはできない。

まず、産業界が用語集の重要性を正しく理解する必要がある。その上で、多種多様な用語集の粗データを供与いただき、業界の枠組みを超えて対訳用語集をムダ・ムラ・ムリなく構築する必要がある。

理解を深めてもらうための具体的な活動として、JTF では、セミナーでの講演や、ジャーナルまたは Web サイトなどでの情報発信を検討する。また、業種・業界を超え、海外の事例に負けないレベルの運用に引き上げるために、

産・官・学の連携した活動(国家プロジェクト、集合知、資産)としてステップアップできるよう、関係機関への働きかけをする必要がある。

産業界のあらゆる関係者に理解を深めてもらいつつ、関係各所に働きかけをしやすい形を今後も継続して模索する必要がある。